



稿本・山之口獏書誌（散文 / その他-後編）

著者	松下 博文
雑誌名	筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要
号	9
ページ	11-23
発行年	2014-01-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1219/00000272/

稿本・山之口獏書誌（散文／その他―後編）

松 下 博 文

Manuscript: A Bibliography of Yamanokuchi-Baku (Prose, etc.—Second Part)

Hirofumi MATHUSHITA

前稿（第8号）同様、小説、随筆、評論、対談等、すでに新聞・雑誌に発表された散文作品、あるいは未発表原稿、また資料として山口家に所蔵されている書簡その他の書誌学的情報を網羅した。

整理にあたっては獏が常套とした作品配列の手順に倣い、新しい作品から古い作品の順に列記した。思潮社版『山之口獏全集』（1975年7月～76年9月）未収録作品については「新●」のように表記し、またそれぞれの作品が全集のページと対照できるような配慮も施した（例えば「ズ305」は全集第3巻随筆305頁）。詳細は下記の「凡例」を参照のこと。

稿を成すに当たり、山口良三・泉氏を始め、山口家の方々には大変お世話になった。この場を借りて御礼申し上げたい。なお、沖縄県立図書館開館100周年を記念して、2010年11月、図書館内に特殊文庫として直筆原稿7500枚を収蔵する『山之口獏文庫』が開設された。「備考」欄に記した原稿・草稿類の詳細な情報は筆者作成の「『山之口獏文庫』草稿細目」を参照されたい。

また、第7号の「稿本・山之口獏書誌（詩／短歌）」については、その後に確認された新しい情報も含めて『新編山之口獏全集第1巻詩篇』（2013年9月・思潮社）の「解題」に纏めた。現時点での最も新しいデータとしてこの「解題」を参照されたい。同じく「散文」の書誌データについても、今後刊行予定の新編全集の「解題」に目を通していただきたい。

〔凡例〕

- ①本稿は山之口獏の散文等に関する書誌学的細目（主に掲載紙誌）の記録である。
- ②便宜上、作品群を（1）発表されたもの、（2）未発表原稿、（3）資料（書簡その他）の3パートに分類した。
- ③書誌は以下の順番で記述した。
 - 作品タイトル：タイトルがないものは（ ）に入れた。また、対談等の座談会形式のタイトルは便宜上（ ）で記した。タイトル決定の際に、場合によっては山口家に所蔵されている獏直筆の掲載紙誌タイトルを参考にした。新聞紙掲載のタイトルで、タイトルなのか見出しなのか、リードなのか、判断しにくいものがあり、その場合、署名の直前をタイトルとし、他をサブタイトルにして（ ）に入れた。
 - 掲載紙誌名（巻・号・発行年月日）：新聞は夕刊についてのみ（夕刊）と記した。掲載紙誌が複数の場合には便宜上A・B・・・・の順で書誌を記した。未確認事項には□を付した。
 - ①編集者②発行人③印刷者④印刷所⑤発行所を記した。但し、奥付に記述がないものは番号を省いた。未確認事項には□を付した。
 - 思潮社版全集ページと対照させた。ただし新●は全集未収録の新資料。
 - 備考：参考程度に注記した。末尾に*で記した「1」「Y1」等の番号/記号は沖縄県立図書館所蔵「『山之口獏文庫』草稿細目」（筆者作成）中の「『山之口獏文庫』所蔵リスト」（作成：上里マチ子、西村三枝子）で用いられているそれに同一である。

●稿本・山之口獏書誌（散文／その他—後編）

作品タイトル：タイトルがないものは（ ）に入れた。また、対談等の座談会形式のタイトルは便宜上（ ）で記した。タイトル決定の際に、場合によっては山口家に所蔵されている獏直筆の掲載紙誌タイトルを参考にした。新聞紙掲載のタイトルで、タイトルなのか見出しなのか、リードなのか、判断しにくいものがあり、その場合、署名の直前をタイトルとし、他をサブタイトルにして（ ）に入れた。	掲載紙誌名（巻・号・発行年月日）：新聞は夕刊についてのみ（夕刊）と記した。掲載紙誌が複数の場合には便宜上A・B・・・・の順で書誌を記した。未確認事項には■を付した。
『日本未来派詩集一九五七年版』推薦文)	1957年10月「日本未来派」第78号（10月25日発行）
自分の家に住む夢—貧乏礼賛	1957年10月25日号「東京新聞」（夕刊）第5472号
(ラジオ・テレビ二つの質問に答える)	1957年9月23日号「東京新聞」第5441号
(紙上文化講座 サークル活動の前進のために)	1957年9月7日号「全織新聞」第397号、同14日号「全織新聞」第398号、同21日号「全織新聞」第399号
山羊料理	1957年9月号「小説新潮」第11巻第12号通巻147号（9月1日発行）
沖縄	1957年7月「子どもにきかせたいとおきの話」第一集（7月1日発行）
豚のしっぽ	1957年6月13日号「東京新聞」（夕刊）第5339号
首をすくめて見送る	A1957年5月14日号「読売新聞」（夕刊）第28911号 B1957年5月17日号「沖縄タイムス」（夕刊）第2754号
着たいものを着る	1957年4月25日号「東京服飾新聞」第58号
車中で拾った話	1957年4月4日号「沖縄タイムス」第2711号
あとの祭り	1957年3月29日号「沖縄タイムス」第2705号
試験	1957年3月3日号「毎日新聞」（夕刊）第29627号
よき友人ありて	1957年3月2日号「週刊女性」第2巻第9号通巻33号
方言のこと	1957年3月号「高校コース」第2巻第13号（3月1日発行）
アルバカ・ルバシカ	1957年2月号「ゆう・もあ」第1巻第2号（2月1日発行）
詩と自作解説無題	1957年2月「現代詩入門」第3巻第2号（2月1日発行）
(「量」英詩と解説)	1957年1月「現代詩入門」第3巻第1号（1月1日発行）
薔薇に寄せて（『歌集薔薇』序文）	1957年1月『歌集薔薇』（1月5日発行）
正月の沖縄料理	1957年1月号「月刊 栄養と料理」第23巻第1号（1月1日発行）
黒美人小	1957年1月号「新婦人」第12巻第1号（1月1日発行）
酒への郷愁	1956年12月28日号「東京新聞」（夕刊）第5174号
気にかかる沖縄	A1956年12月14日号「産経時事」第5127号 B1956年12月30日号「琉球新報」（夕刊）第2779号
歳末雑感	A1956年12月11日号「読売新聞」（夕刊）第28758号 B1956年12月28日号「琉球新報」2777号
詩の島・八重山—芸術祭参加芸能公演に際して	1956年11月8日号「琉球新報」第2727号
しらすぎのおつけ	1956年11月号「りぼん」第2巻第11号（11月1日発行）
沖縄悲歌	1956年11月号「新潮」第53巻第11号（11月1日発行）
ゴミ焼却場	1956年10月18日号「東京新聞」（夕刊）第5103号

①編集者②発行人③印刷者④印刷所⑤発行所。但し、奥付に記述がないものは番号を省いた。未確認事項は空白とした。	旧全集ページ	備考：参考程度に注記した。末尾に*で記した「1」「Y1」等の番号/記号は「山之口獏文庫 草稿細目」中の「山之口獏文庫 所蔵リスト」(作成：上里マチ子、西村三枝子) で用いられているそれと同一である。「山之口獏文庫 草稿細目」と照合する際に利用されたい。
①土橋治重②近藤伝之介④新栄堂⑤近藤書店：東京都文京区春日町3丁目2番地	新●	*裏表紙に掲載。他に、西脇順三郎、村野四郎、深尾須磨子、北川冬彦、草野心平、三井ふたばこ、壺井繁治の推薦文あり。
⑤東京新聞社：東京都千代田区内幸町2ノ10	ズ178	*「文化」欄に掲載。
⑤東京新聞社：東京都千代田区内幸町2ノ10	ズ178	*「ラジオ・テレビ」欄へのアンケート(①最近のラジオ・テレビでおもしろかった番組は?②あなたがもしプロデューサーだったらどんな番組をつくりますか)。タイトルは見出しをそのまま採用した。
①平井脩博②斉藤勇⑤全国繊維産業労働組合同盟：東京都港区芝三田四国町2の6	評69	*「紙上文化講座」(上・中・下3回)。上「詩とはなにか」、中「詩と生活の結びつき」、下「何のために詩を書くか」。この講座は1956年9月29日号(秋山日出夫「コーラス」)に始まり、1958年2月22日号(古谷綱武「読書」)で終了。いわゆる「サークル活動」のための「文化講座」である。1956年9月8日号には講座の「予告」が掲載されているが、コーラス(秋山日出夫)、人形劇(井村淳)、朗読会(青江舜二郎)、話し合い(大久保忠利)、弁論(高桑未攻)、演劇(青江舜二郎)、マンガ(佐川美代太郎)、労働文化(服部正)、短歌(五島美代子)、俳句(石田波郷)、映画(和田矩衛)、小説(福田清人)、音楽鑑賞(野呂信次郎)、絵画(高橋忠弥)、詩(山之口獏)、フォークダンス(岡野齋)、幻灯(小林馨)、生活記録(金子貞子)、川柳(石原青龍刀)、読書(古谷綱武)の順で掲載された。
①②佐藤俊夫③長久保慶一④大日本印刷⑤新潮社：東京都新宿区矢来町71	評253	
①阿部知二・国分一太郎②佐々木峻⑤英宝社：東京都千代田区IIし神田1-10	評249	
⑤東京新聞社：東京都千代田区内幸町2ノ10	ズ173	*顔写真1枚掲載。
A⑤読売新聞社：東京都中央区銀座西3の1 B⑤沖縄タイムス社：那覇市5区	ズ172	*A「文化」欄の「近況報告」欄に掲載。顔写真1枚掲載。*B「近況報告」欄に掲載。顔写真1枚掲載。*「Y69」(「袋入り草稿類①」)に独立した一束の塊として収録。
①②山岸一夫⑤東京服飾新聞社：中央区日本橋堀留町1の1東武ビル	ズ169	*「一人一筆」欄に掲載。
①②③上地一史⑤沖縄タイムス社：那覇市5区	ズ168	*「茶のみ話」欄に掲載。
①②③上地一史⑤沖縄タイムス社：那覇市5区	ズ164	
⑤毎日新聞社(東京)：東京都千代田区有楽町1の11	ズ163	*「茶の間」欄に掲載。
①③大島守正②大島秀一⑤主婦と生活社：東京都千代田区西神田1丁目3番地	新●	
①三木公久②吉岡秀人④中教印刷・恒陽社印刷所・4代目グラフィック印刷所⑤学習研究社：東京都大田区南千束町46番地	評246	*「ふるさとの思い出」(掲載誌リード)
①②長崎拔天③河合勇④日刊スポーツ印刷所⑤日刊スポーツ新聞社：東京都中央区新富町3ノ7	説282	
①②田畔忠彦③馬場菊雄⑤時間社：東京都新宿区須賀町10ノ1	新●	
①②田畔忠彦③馬場菊雄⑤時間社：東京都新宿区須賀町10ノ2	新●	
①鮎貝久仁子・鮎貝智恵子②石黒清介③淡路賢⑤短歌新聞社：東京都杉並区馬橋3の431	新●	*序文末尾に「1956・11・1朝」の付記あり。
①②香川綾④凸版印刷⑤女子栄養短期大学出版部：東京都豊島区駒込3ノ422	評242	*雑誌の企画タイトルは「正月のお客さまには」で数名の執筆者とともに企画に合ったエッセイを執筆。本人のタイトルはない。所蔵雑誌の表紙カバーには「正月の沖縄料理」と書かれている。ここではこのタイトルを採用した。
①②山本忠男④大日本印刷⑤文化実業社：東京都文京区諏訪町27池坊会館内	評244	*「女性テレビ室」欄に掲載。カラカラの自筆カット掲載。
⑤東京新聞社：東京都千代田区内幸町2ノ10	ズ160	*「文化」欄に掲載。
A⑤産業経済新聞東京本社：東京都千代田区大手町1-3 B⑤琉球新報社：那覇市美栄橋区御成橋通	評239	*A「文化」欄に掲載、「日本に帰れないつらさ」(掲載誌リード)。*B「元旦だけの”日の丸”のふるさと」(掲載誌リード)。
A⑤読売新聞社：東京都中央区銀座西3ノ1 B⑤琉球新報社：那覇市美栄橋区御成橋通	ズ157	*A「文化」欄に掲載。顔写真1枚掲載。
⑤琉球新報社：那覇市美栄橋区御成橋通	評238	
①加藤照夫②陶山巖③長久保慶一④大日本印刷⑤集英社：東京都千代田区神田一ツ橋2の3		*絵：亀井三恵子。
①②斉藤十一③長久保慶一④大日本出版⑤新潮社：東京都新宿区矢来町71	評234	*「日本諸国断」欄に掲載。
⑤東京新聞社：東京都千代田区内幸町2ノ10	ズ152	*「文化」欄の「現代の表情」欄に掲載、「秋空に吐く白い煙」(掲載誌リード)、絵：内田武夫。

作品タイトル：タイトルがないものは（ ）に入れた。また、対談等の座談会形式のタイトルは便宜上（ ）で記した。タイトル決定の際に、場合によっては山口家に所蔵されている類直筆の掲載紙誌タイトルを参考にした。新聞紙掲載のタイトルで、タイトルなのが見出しなのか、リードなのか、判断しにくいものがあり、その場合、署名の直前をタイトルとし、他をサブタイトルにして（ ）に入れた。	掲載紙誌名（巻・号・発行年月日）：新聞は夕刊についてのみ（夕刊）と記した。掲載紙誌が複数の場合には便宜上A・B・・・・の順で書誌を記した。未確認事項には■を付した。
チャンプルー	1956年10月号「食生活」第50巻第10号通巻569号（10月1日発行）
某月某日	1956年9月30日号「日本経済新聞」第25471号
（わたしの日記）	1956年9月16日号「朝日新聞」（城北版）第25370号
（鼎談 詩人は沖縄をどう見るか）	1956年9月号「現代詩」第3巻第8号（9月1日発行）
沖縄の叫び	1956年9月号「婦人画報」通巻625号（9月1日発行）
第三日曜日	1956年9月号「新潮」第53巻第9号（9月1日発行）
（沖縄を憶う人々）	1956年7月8日号「アサヒグラフ」
梯梧の花—ふるさと沖縄をおもう	A1956年7月3日号「読売新聞」（夕刊）第28598号 B1956年7月9日号「琉球新報」第2605号
酒友列伝	1956年7月号「小説新潮」第10巻第9号通巻128号（7月1日発行）
装幀の悩み	1956年6月30日号「図書新聞」第354号
詩人と商人	A1956年4月13日号「東京新聞」（夕刊）第4917号 B1956年4月20日号「琉球新報」第2525号
Aのたのしみ	1956年4月号「笑の泉」第11巻第4号通巻98号（4月1日発行）
兄の受験—専検の夢をみて終った一生	1956年3月8日号「産経時事」第4848号
ヤファラジュシー	1956年3月号「婦人朝日」第11巻第3号通巻122号（3月1日発行）
高橋新吉覚書	1956年2月号「新潮」第53巻第2号（2月1日発行）
ひとごとではない—パズル・ホール「航海記」読後感	1955年12月25日号「琉球新報」第2409号
ふるさと沖縄を思う	1955年11月特大号「女学生の友」第6巻第8号（11月1日発行）
カラカラ	1955年10月3日号「読売新聞」第28325号
（詩の講座・現代詩講座—中学生の広場）	1955年10月「中学生生活」創刊号（10月1日発行）—56年3月「中学生生活」第1巻第6号（3月1日発行）
箱根と湯之見	1955年10月号「温泉」第23巻第10号（10月1日発行）
金子光晴 〈心の友〉	1955年10月号「新潮」第52巻第10号（10月1日発行）
あんだんすう	1955年9月『ふるさとの料理』
バランスを求めるために	1955年9月『ポエム・ライブラリー3 私はこうして詩を作るII』（9月5日発行）
沖縄を思う	A1955年5月9日号「高知新聞」（夕刊）第17739号 B同5月11日号「山陽新聞」（夕刊）第25961号、C同5月15日号「愛媛新聞」第4885号、D同5月16日号「北国新聞」第22468号
沖縄と日の丸—ふるさとを離れておもうこと	1955年5月8日号「日曜新聞」第140号
自作解説 会話	1955年5月号「現代詩」第2巻第5号（5月1日発行）
赤い雨がっぱ	A1955年5月「学図だより」第17号 B1957年8月「詩文芸」第2号（1957年8月15日発行）
自分のこと、淵上のこと	1955年5月『現代日本詩人全集 第14巻「附録」』
酒いろいろ	1955年3月「おきなわ」第6巻第2号通巻44号（3月10日発行）
電車	1955年3月「おきなわ」第6巻第2号通巻44号（3月10日発行）
職場の詩	1955年2月26日号「全職新聞」第265号
初恋のやり直し—わが青春記	1955年2月9日号「東京新聞」（夕刊）第4491号
声をあげて泣く—私の処女出版	1954年12月27日号「東京新聞」（夕刊）第4448号
質札	1954年12月25日号「時事新報」第22511号
歳末の質屋	1954年12月16日号「東京新聞」（夕刊）第4437号
こどもと共有一私の机の上	1954年12月12日号「朝日新聞」第24731号
沖縄—あの山 あの川	1954年11月11日号「日本経済新聞」第24788号

①編集者②発行人③印刷者④印刷所⑤発行所。但し、奥付に記述がないものは番号を省いた。未確認事項は空白とした。	旧全集 ページ	備考：参考程度に注記した。末尾に*で記した「1」「Y1」等の番号/記号は「山之口鏡文庫」草稿細目」中の「『山之口鏡文庫』所蔵リスト」(作成：上里マチ子、西村三枝子)で用いられているそれに同一である。「山之口鏡文庫」草稿細目」と照合する際に利用されたい。
①②大山功④大日本印刷⑤国民栄養協会：東京都港区芝通新町14番地	評313	*「ふるさとの味 沖繩」(掲載誌リード)
⑤日本経済新聞社：東京都中央区日本橋茅場町2-16	ズ152	
⑤城北支局：豊島区日ノ出町3ノ10	ズ149	*顔写真1枚掲載。絵：高橋春人。「わたしの日記」シリーズ第20回目(最終回)記事。
①岡本潤②緑川昇④新栄堂⑤緑書房：東京都千代田区神田神保町一ノ三	新●	*金子光晴・山之口鏡・許南麒による鼎談。
①近藤善勝②③柳沼沢介④共同印刷他⑤婦人画報社：東京都港区芝田村町三ノ八	評220	*写真2枚掲載(戦前の真玉橋、那覇の士族屋敷)。*深尾須磨子「殉教者沖繩よ」掲載。
①②佐藤俊夫③長久保慶一④大日本出版⑤新潮社：東京都新宿区矢来町71	説262	
①新延修②③春海鎮男⑤朝日新聞社	新●	*写真と文を掲載(石野徑一郎・大浜信泉・船越義珍・渡久口政信・山之口鏡・比嘉良馬・神山政良・尚裕・新崎盛敏)。
A⑤読売新聞社：東京都中央区銀座西3ノ1 B⑤琉球新報社：那覇市美栄橋区御成橋通	評217	*A「文化」欄に掲載。
A①②齊藤十一③長久保慶一④大日本出版⑤新潮社：東京都新宿区矢来町71	ズ139	
⑤図書新聞社：東京都千代田区麹町1の4	ズ137	*「読書随筆」欄に掲載。
A⑤東京新聞社：東京都千代田区内幸町2ノ10 B⑤琉球新報社：那覇市美栄橋区御成橋通	ズ130	*A「文化」欄に掲載。*B「気まぐれ随筆」欄に掲載。
①田部昶②村田愛子③三枝正信④京橋印刷⑤笑の泉社：東京都港区芝新橋2の12	ズ133	*「風流滑稽奇談二十人集」欄に掲載。
⑤産業経済新聞東京本社：東京都千代田区大手町1-3	ズ127	*「学芸」欄に掲載。
①兄玉正信②③春海鎮男⑤朝日新聞社	評215	*「ふるさとの味・おかゆ・ぞうすい」欄に掲載。
①②齊藤十一③長久保慶一④大日本出版⑤新潮社：東京都新宿区矢来町71	評210	
⑤琉球新報社：那覇市美栄橋区御成橋通	ズ125	
①浅野次郎②③相賀徹夫④共同印刷⑤小学館：東京都千代田区神田一ツ橋2丁目5番地	評210	*写真4枚掲載(兼茸屋根校舎、蛇皮線を弾く女性、戦前の那覇風景、四つ竹踊りの女性)。
⑤読売新聞社：東京都中央区銀座西3ノ1	ズ119	*「絵のある随筆」欄に掲載、カラカワのカットは自筆か。
①浅野次郎②③相賀徹夫④凸版印刷⑤小学館：東京都千代田区神田一ツ橋2の5	評39	*当誌は学生に限らず一般からも広く文学作品を応募し、それに選評を付すコーナー「中学生の広場」が設けられている。選者は俳句(中村草田男)・短歌(信夫澄子)・作文(関秀雄)・詩(山之口鏡)の4氏。全6回。鏡は第1回目は選評を書いているが、2回目以降は選評ではなく、自らの詩論を展開している。1回目に見出しはない。2回目以降の見出しは以下の通り。「詩の講座2 詩を求めるころ」「詩の講座3 詩と生活」「現代詩講座4 生活と詩」「現代詩講座5 生活を大事に」「現代詩講座6 よく見ることは」
①③日本温泉協会②安齋秀夫④凸版印刷⑤日本温泉協会：東京中央郵便局内	ズ120	
①②齊藤十一③長久保慶一④大日本出版⑤新潮社：東京都新宿区矢来町71	評118	
①伊藤永之介他②栗木和夫③曾根盛事④扶桑印刷⑤中央公論社	新●	
①村野四郎②小林茂③曾根盛事⑤東京創元社：東京都新宿区新小川町1の16	評46	*『ボエム・ライブラリイ』全6巻シリーズの第3巻目。
A⑤高知新聞社：高知市本町24番地 B⑤山陽新聞社：岡山市下石井397番地 C⑤愛媛新聞社：松山市大手町1丁目52番地 D⑤北国新聞社：金沢本社：金沢市南町93番地：富山本社：富山市総曲輪大手通	評207	
①中島健三⑤日曜新聞社：東京都台東区浅草橋1の11	評206	*写真2枚掲載(顔写真1枚「おもしろ」で浜千鳥を踊る姿1枚)。
①新日本文学会詩委員会②後藤彦十郎④第一印刷⑤百合出版：東京都神田神保町1ノ2		
A⑤牧書店：東京都新宿区揚場町1 B①②三笹光一③④文英堂印刷⑤詩文芸社：東京都大田区調布大塚町622	ズ175	
①菊岡久利②小林茂③曾根盛事④扶桑印刷⑤東京創元社	新●	
①神村朝堅②中田彦彦③神村朝堅⑤おきなわ社：東京都中央区銀座西3の1物商ビル	新●	*「酒いろいろ・他一篇」として「電車」「酒いろいろ」の二篇同時掲載。
①神村朝堅②中田彦彦③神村朝堅⑤おきなわ社：東京都中央区銀座西3の1物商ビル	新●	*「酒いろいろ・他一篇」として「電車」「酒いろいろ」の二篇同時掲載。
①平井脩博②齊藤勇⑤全国繊維産業労働組合同盟：東京都港区芝三田四国町2の6	新●	
⑤東京新聞社：東京都千代田区内幸町2ノ10	ズ116	*「文化」欄に掲載。顔写真1枚掲載。
⑤東京新聞社：東京都千代田区内幸町2ノ10	ズ115	*「文化」欄に掲載。顔写真1枚掲載。
⑤時事新報社：東京都千代田区有楽町2ノ4	ズ113	*「読書・美術」欄に掲載。
⑤東京新聞社：東京都千代田区内幸町2ノ10	ズ109	*「文化」欄の「現代の表情」欄に掲載、「都内に約千八百店」(掲載紙リード)、絵：桂ユキ子。
⑤朝日新聞東京本社：東京都千代田区有楽町2丁目3番地	ズ108	*「学芸」欄に掲載。*「Y62」(通し番号2オモテに「昭和二十九年十二月十二日朝日新聞」の記述あり。「袋入り草稿類①」に独立した一束の塊として収納)。
⑤日本経済新聞社：東京都中央区日本橋茅場町2-16	評205	

作品タイトル：タイトルがないものは（ ）に入れた。また、対談等の座談会形式のタイトルは便宜上（ ）で記した。タイトル決定の際に、場合によっては山口家に所蔵されている類直筆の掲載紙誌タイトルを参考にした。新聞紙掲載のタイトルで、タイトルなのが見出しなのか、リードなのか、判断しにくいものがあり、その場合、署名の直前をタイトルとし、他をサブタイトルにして（ ）に入れた。	掲載紙誌名（巻・号・発行年月日）：新聞は夕刊についてのみ（夕刊）と記した。掲載紙誌が複数の場合には便宜上A・B・・・・の順で書誌を記した。未確認事項には■を付した。
街	1954年11月号「新潮」第51巻第11号（11月1日発行）
暴風への郷愁	1954年9月22日号「毎日新聞」第28143号
光子の縁談	1954年9月号「電信電話」第6巻第9号（9月1日発行）
山原船	1954年8月18日号「毎日グラフ」（8月18日発行）
琉球新報のおもひ出	1954年7月31日号「琉球新報」1898号
月見草	A1954年7月27日号「四国新聞」（夕刊）第21654号 B1954年7月30日号「南日本新聞」（夕刊）第4588号
駐在所	1954年7月16日号「朝日新聞」第24583号
雨とニコヨン	1954年7月1日号「東京新聞」（夕刊）第4270号
再軍備と沖繩	1954年5月9日号「週刊タイムス（憲法発布記念特別号）」通巻30号
掌小説 父母会	1954年5月「朝日放送」放送用台本
冬の外套	1953年12月24日号「時事新報」第22148号
歳末デコレーション	1953年12月10日号「東京新聞」（夕刊）第4069号
（鼎談 貧乏詩人の歌える一夜逃げ・借金・そして居候）	1953年12月「文藝春秋 冬の増刊爐辺読本」第31巻第18号（12月5日発行）
Hとその息子	1953年9月18日号「日教組教育新聞」第234号
がじまるの木蔭	1953年9月「おきなわ」第4巻第7号通巻31号（9月10日発行）
池田克己の横顔	1953年8月号「日本未来派（池田克己追悼特集）」第57号（8月1日発行）
フィクション	1953年7月10日号「朝日新聞」第24215号
ある年の夏	1953年7月号「明窓」第4巻第4号（7月1日発行）
祖国琉球	1953年5月号「新潮」第50巻第5号（5月1日発行）
池袋の店	1953年4月2日号「報知新聞」第25825号
このごろ	1953年3月13日号「読売新聞」第27394号
「ひめゆりの塔」と沖繩調	1953年1月27日号「内外タイムス」第2265号
禁物・俸給日の訪問	1952年12月10日号「東京新聞」（夕刊）第3715号
雨あがり	1952年11月22日号「産業経済新聞」第3656号
詩人の一家	A1952年10月27日「朝日放送」放送用台本 B1954年8月「おきなわ」第5巻第6号通巻39号（8月10日発行） C1957年7月「詩文芸」創刊号（7月1日発行）
関白娘	1952年10月25日号「サンデー毎日中秋特別号」第31年第47号通巻1725号
小説 質屋の娘	1952年9月10号「毎日グラフ」第5年第26号通巻131号
ベンチ	1952年9月10日号「サンデー毎日新秋特別号」第31年第41号通巻1719号
人さまざま	1952年7月号「明窓」第3巻第4号（7月1日発行）
ぬれたコウモリ	1952年4月16日号「朝日新聞」（夕刊）第23767号
闘魚	1952年4月14日号「産業経済新聞」第5434号
解説「金子光晴」	1952年3月『金子光晴詩集』（新潮文庫）
琉球の幽霊	1951年12月号「農林春秋」第1巻第6号（12月1日発行）
第四「貧乏物語」	1951年12月号「中央公論」第66年第13号通巻755号（12月1日発行）
火野葦平著「赤道祭」	1951年11月26日号「図書新聞」第122号
月謝	1951年11月号「明窓」第2巻第8号（11月1日発行）
獺という犬	1951年9月特大号「新潮」第48巻第19号（9月1日発行）
だるません	1951年9月号「よいこ1年生」第2巻第6号（9月1日発行）
空手ものがたり ちょんまげのタルー	1951年7月号「少年クラブ」第38巻第8号（7月1日発行）
ものもらいの話	1951年7月『中学生のための現代詩鑑賞』

①編集者②発行人③印刷者④印刷所⑤発行所。但し、奥付に記述がないものは番号を省いた。未確認事項は空白とした。	旧全集 ページ	備考：参考程度に注記した。末尾に*で記した「1」「Y1」等の番号／記号は「山之口鏡文庫」草稿細目中の「『山之口鏡文庫』所蔵リスト」(作成：上里マチ子、西村三枝子)で用いられているそれと同一である。「山之口鏡文庫」草稿細目と照合する際に利用されたい。
①②斉藤十一③長久保慶一④大日本印刷⑤新潮社：東京都新宿区矢来町71	ズ106	
⑤毎日新聞社(東京)：東京都千代田区有楽町1の11	ズ104	*「学芸」欄に掲載。
①日本電信電話公社宣伝課②柴田賢次郎④秀英社⑤日東出版社：東京都千代田区神田鎌倉町16	説254	
①②緒方昇⑤毎日新聞社	ズ101	*「閑人帖」欄に掲載。*猿の手になるシーサー・波上宮・山原船・赤瓦・龍舌蘭のスケッチあり。
⑤琉球新報社：那覇市美栄橋区御成橋通	新●	*「Y80」(通し番号7オモテに「31日特集号」の記述あり)
A①②③高尾桂三④四国新聞社：高松市天神前60番地 B⑤南日本新聞社：鹿児島市易居町2	ズ99	
⑤朝日新聞東京本社：東京都千代田区有楽町2丁目3番地	ズ98	*「学芸」欄の「明るい話」欄に掲載。
⑤東京新聞社：東京都千代田区内幸町2ノ10	ズ95	*「文化」欄の「現代の表情」欄に掲載、「詩人、画家も職安へ」(掲載紙リード)、絵：朝倉祺。
①②③佐藤千晴④印刷所⑤発行所	新●	*掲載誌表紙見出し「特集自衛軍海を渡るか?沸騰する海外派兵是非論」、「知識人の立場」欄に掲載。
	新●	*企画：庄野潤三。*「Y61」(A群：「袋入り草稿類①」)に独立した一束の塊として収納)
⑤時事新報社：東京都千代田区有楽町2ノ4	ズ92	*同紙の一面トップは「奄美群島あす復帰」の記事。
⑤東京新聞社：東京都千代田区内幸町2ノ10	ズ89	*「文化」欄の「現代の表情」欄に掲載、「吹き募るXマス風」(掲載紙リード)、絵：高野三三男。
①田川博一②池島信平③柳川太郎④凸版印刷⑤文藝春秋新社：東京都中央区銀座西5ノ7	新●	*金子光晴・山之口鏡・草野心平による鼎談。
①②③矢田勝士⑤日本教職員組合：東京神田一ツ橋教育会館	ズ87	*「随想」欄に掲載。顔写真1枚掲載。
①神村朝堅②中田匡彦④明德印刷社⑤おきなわ社：東京都中央区銀座西2の3第一物商内	評201	
①上林猷夫②古川武雄④レイモンド⑤日本未来派発行所：札幌市北六條東9丁目384	評117	*「回想記」に掲載。
⑤朝日新聞東京本社：東京都千代田区有楽町2丁目3番地	ズ77	*「学芸」欄に掲載。
①②佐藤一郎④小林印刷⑤官庁会計実務通信講座編集部：東京都新宿区四谷本塩町2大蔵省主計局内	ズ79	
①②斉藤十一③村尾一雄④大日本印刷⑤新潮社：東京都新宿区矢来町71	評195	
⑤報知新聞社：東京都中央区銀座西3の3	ズ75	*絵：吉井忠、「盛り場の横顔」欄に掲載。
⑤読売新聞社：東京都中央区銀座西3ノ1	ズ77	*「文化」欄に掲載。
①②③土井信治⑤内外タイムス社：東京都中央区銀座西3の1	評193	*「随想」欄に掲載。
①②③黒田重吉⑤東京新聞社：東京都千代田区内幸町2ノ10	ズ59	*「歳末記」欄に掲載。
⑤産業経済新聞東京本社：東京都千代田区有楽町2ノ4	ズ56	*「文化」欄に掲載。
A企画：庄野潤三 B①③神村朝堅②中田匡彦⑤おきなわ社：東京都中央区銀座西3の1物商ビル C①②三笹光一③④文英堂印刷⑤詩文芸社：東京都大田区田園調布局私書函14号		*「Y60」(「袋入り草稿類①」)にA群、B群、C群がそれぞれ独立した一束の塊として収納)
①②辻平一⑤毎日新聞社	説242	*画：鍋井克之、「可麗なる関白と貧乏詩人」(掲載紙リード)。
①②柄沢広之⑤毎日新聞社	説240	
①②辻平一⑤毎日新聞社	ズ73	*写真1枚掲載(日比谷公園を撮った写真についての説明文)。
①②山下武利④小林印刷⑤官庁会計実務通信講座編集部：東京都新宿区四谷本塩町2大蔵省主計局内	ズ65	*「Y52」(昭和二十七年七月号明窓)の記述あり)
⑤朝日新聞東京本社：東京都千代田区有楽町2丁目3番地	ズ50	*「はくも一言」欄に掲載。
①②井村由雄⑤産業経済新聞東京本社：東京都千代田区有楽町2ノ4	ズ49	*「文化」欄に掲載。
①金子光晴②佐藤義夫⑤新潮社：東京都新宿区矢来町71	評105	
①②山根東明③大橋芳雄④共同印刷⑤財団法人農林協会：東京都千代田区有楽町1の11	評188	*「Y52」(昭和二十六年十二月号農林春秋)の記述あり)
①篠原敏之②栗本和夫④大日本印刷⑤中央公論社：東京都千代田区丸の内丸ビル5階	説230	*「Y52」(目次は「貧乏物語」。「昭和二十六年十二月号中央公論」の記述あり)「Y81」(個人蔵)
①②田所太郎⑤図書新聞社：東京都千代田区麹町1ノ4竹工堂ビル	ズ45	*「底を流れる琉球への郷愁」(掲載紙リード)。
①②山下武利④坂根商店⑤官庁会計実務通信講座編集部：東京都新宿区四谷本塩町2大蔵省主計局内	説221	*「Y52」(昭和二十六年十一月号明窓)の記述あり)
①②斉藤十一③村尾一雄④大日本印刷⑤新潮社：東京都新宿区矢来町71	説203	*「Y52」(昭和二十六年九月号新潮)の記述あり)
①②陶山巖③大橋芳雄④共同印刷⑤集英社：東京都千代田区神田一ツ橋2の5		*絵：大石哲路。
①②伊藤金吾③大野治輔④二葉株式会社⑤大日本雄弁会講談社：東京都文京区音羽町3の19		*絵：金子士郎。
①現代詩人会②宝文館③仙葉元太郎⑤宝文館：東京都千代田区神田錦町3ノ20	評34	*「ものもらいの話」についての自作詩鑑賞。

作品タイトル：タイトルがないものは（ ）に入れた。また、対談等の座談会形式のタイトルは便宜上（ ）で記した。タイトル決定の際に、場合によっては山口家に所蔵されている猿直筆の掲載紙誌タイトルを参考にした。新聞紙掲載のタイトルで、タイトルなのが見出しなのか、リードなのか、判断しにくいものがあり、その場合、署名の直前をタイトルとし、他をサブタイトルにして（ ）に入れた。	掲載紙誌名（巻・号・発行年月日）：新聞は夕刊についてのみ（夕刊）と記した。掲載紙誌が複数の場合には便宜上A・B・・・・の順で書誌を記した。未確認事項には■を付した。
明け方	1951年6月号「群像」第6巻第6号（6月1日発行）
親日家	1951年6月号「ベストセラー」第1巻第2号（6月1日発行）
さるのこどもとかにのこども	A1951年5月号「よこ1年生」第2巻第2号（5月1日発行）B1956年1月1日号「琉球新報」第2416号
穴木先生と詩人	1951年4月号「新潮」第48巻第5号（4月1日発行）
諷刺詩の鑑賞	1951年3月『現代詩十講』
(アンケート もっとも印象に残る優れた写真)	1950年12月号『CAMERA カメラ』第40巻第6号通巻341号
野宿	1950年9月号「群像」第5巻第9号（9月1日発行）
(秋になったら葉書回答)	1950年8月31日号「夕刊新大阪」第1658号
夏向きの一夜	1950年8月10日号「東京労働」第65号
出版界と詩人	1950年8月7日号「夕刊 伊勢」第1521号
私の推薦する詩人	1950年7月10日号「夕刊新大阪」第1615号
お福さんの杞憂	1950年6月号「新潮」第47巻第6号（6月1日発行）
淵上毛銭とぼく	1950年6月号「詩学」第5巻第5号（6月30日発行）
(作者のことば・略歴)	1950年5月『現代日本文学選集 第11巻』（5月31日発行）
人間朝鮮のすがた	1950年5月号「新日本文学」第5巻第3号通巻36号（5月1日発行）
マイナス五千円	1950年3月22日号「図書新聞」第37号
無銭宿	1950年2月号「新潮」第47巻第2号（2月1日発行）
(詩人現地報告 アンケート)	1949年11月「日本未来派」第29号（11月1日発行）
絡	1949年8月号「文藝讀物」第8巻第7号（8月1日発行）
誤解されたお灸	1949年7月18日号「夕刊新大阪」第1251号
(座談会 現代詩の核心をめぐる)	1948年12月号「歷程」復刊第6号（12月1日発行）
兼業の悲喜劇	1948年10月18日号「東京新聞」第2197号
(アンケート 十年前のあなたは 十年後のあなたは)	1948年7月号「日本未来派」第13号（7月1日発行）
逸見猶吉と 那覇人	1948年7月号「歷程」復刊第5号（7月30日発行） 1944年10月25日号「東京新聞」第752号
詩人の結婚	1943年6月号「中央公論」第58年第6号通巻670号（6月1日発行）
速達	1943年4月号「歷程」第21号（4月1日発行）
ばくおじさん	1941年6月以降執筆
乗り降り	1941年6月5日号「都新聞」（夕刊）第19258号
(私の顔)	A1941年4月号「歷程」第14号（4月20日発行）B1958年9月10日号「沖繩タイムス」第3233号
スフに就て	1941年3月2日号「都新聞」（夕刊）19164号

①編集者②発行人③印刷者④印刷所⑤発行所。但し、奥付に記述がないものは番号を省いた。未確認事項は空白とした。	旧全集ページ	備考：参考程度に注記した。末尾に*で記した「1」「Y1」等の番号/記号は「山之口鏡文庫」草稿細目中の「『山之口鏡文庫』所蔵リスト」(作成：上里マチ子、西村三枝子)で用いられているそれに同一である。「山之口鏡文庫」草稿細目」と照合する際に利用されたい。
①②有本勉③大橋芳雄④共同印刷⑤講談社：東京都文京区音羽町3丁目19番地	ズ63	
①②西田義郎④共同印刷⑤日米通信社：東京都千代田区有楽町1の11毎日新聞社新館内	説193	*「Y52」(昭和二十六年六月号ベストセラー)の記述あり)
A①②陶山巖③大橋芳雄④共同印刷⑤集英社：東京都千代田区神田一ツ橋2の5 B ⑤那覇市美栄橋区御成橋通り		*A絵：鈴木壽雄*Bタイトル「こざる と こがに」(Aの初出本文を部分的に改稿)。
①②齊藤十一③小坂孟④大日本印刷⑤新潮社：東京都新宿区矢来町71	説162	*「Y52」(昭和二十六年四月号新潮)の記述あり)「Y58」(A群通し番号1ウラに「世界評論」の記述あり)
①現代詩人会②宝文館③早坂善太郎⑤宝文館：東京都千代田区神田錦町3ノ20	評20	*目次は「現代詩の鑑賞—諷刺詩」。
①桑原甲子雄②北原鐵雄③小坂孟④大日本印刷工場ヶ谷工場⑤アルス：東京都千代田区神田神保町3の17	新●	*「もっとも印象に残る優れた写真をお挙げ下さい」というアンケートへの回答。山之口鏡(住所：練馬区向山町1292月田方)も土門拳(住所：中央区築地明石町31)も「魔法」の同人。
①②高橋清次③大橋芳雄④共同印刷⑤講談社：文京区音羽町3丁目19番地	説149	*「Y52」(昭和二十五年九月号群像)の記述あり)
①②③薄田桂⑤新大阪新聞社：大阪市西区阿波堀通1の5	新●	
①②西川勇生⑤東京都労働局：東京都千代田区丸之内3ノ5	ズ53	*「文化」欄に掲載*高島高「人間」も同時掲載。
①②③園田寛⑤夕刊伊勢新聞社：四日市市千歳町	ズ51	*「論と想」欄に掲載。
①②③水本正次⑤新大阪新聞社：大阪市西区阿波堀通1の5	新●	
①②齊藤十一③小坂孟④大日本印刷⑤新潮社：東京都新宿区矢来町71	説104	*「Y52」(昭和二十五年六月号新潮)の記述あり)
①②岩谷満③浅野剛④金羊士⑤岩谷書店：東京都芝居区内港区芝西久保保町十二	評100	*原稿タイトル「淵上毛銭を紹介す」。*「Y57」(通し番号1オモテの原稿末尾に「昭和二十三年七月二十三日」の付記あり)
①志賀直哉②細川武夫③山田一雄④大化堂⑤細川書店：東京都千代田区神田同朋町	新●	*写真掲載。
①中野重治②壺井繁治③佐藤勲④朝日印刷⑤新日本文学会：東京都新宿区西久保1の421	評17	*掲載誌見出し「朝鮮冬物語によせて」、岡本潤「抵抗する民族の花束」と同時掲載。
⑤図書新聞社：東京都神田小川町1ノ3小川町ビル5階	ズ47	*「最後の質種は女房が苦面する」(掲載紙りード)、写真1枚掲載(山之口氏と令嬢)
①②齊藤十一③小坂孟④大日本印刷⑤新潮社：東京都新宿区矢来町71	説87	*「Y52」(昭和二十五年二月号新潮)の記述あり)
①池田克己②古川武雄③三田徳光⑤日本未来派発行所：札幌市北六條東9丁目384	新●	
①松本国雄②香西昇③北川武之輔④細川活版所⑤日比谷出版社：東京都港区芝虎ノ門8(城南ビル)	ズ41	*「Y52」(昭和二十四年八月号文藝讀物)の記述あり)
①②山口英二⑤新大阪新聞社：大阪市西区阿波堀通1の5	ズ39	*「学芸」欄に掲載。
①草野心平②増岡章政③山川宗一④山川印刷所⑤交又書房：東京都文京区駒込富士前町6	新●	*伊藤信吉・藤原定・山之口鏡・草野心平による座談会。
①②③黒田重吉⑤東京新聞社：東京都千代田区内幸町2ノ10	ズ38	*「文化」欄に掲載。
①池田克己②古川武雄③三田哲司⑤日本未来派発行所：札幌市北六條東九丁目三八四	新●	*「編集後記」に次のような記述がある。(未来派もいよいよ第三年目はいるわけである。いざさか記念めいた意味で、アンケートをこころみた。回答を寄せられた諸家に、お礼を申上げる。十年前を思い、十年後を想うということの中に、詩人や作家の抵抗線をくみとることは、興味深いものであろうと想われる。)
①草野心平②酒井はな③永田利一⑤十字屋書店：東京都千代田区神田神保町一ノ七	評98	
①②③黒田重吉⑤東京新聞社：東京都千代田区内幸町2ノ10	ズ36	
①畑中繁雄②松林恒③新里鋭三郎④大日本印刷⑤中央公論社：東京市丸ノ内ビルディング588区	説73	*「Y52」(昭和十八年六月号中央公論)の記述あり)
①小沢豊吉②鎌田敬止③西川喜右衛門④秀英社⑤八雲書林：東京市大森区調布嶺町1ノ347	新●	
	説348	ノ*異種原稿あり。山口家所蔵。ノ「Y56」(原稿タイトルの「やすくにじんしゃ」を消去。原稿通し番号25の表側に「新日本幼年文庫」の記述はない。「新日本幼年文庫」は一九四一年七月～一九四四年九月まで帝国教育会出版部から全二十四冊刊行された。原稿は本文の内容から判断して一九四一年六月以降に書かれたと推定される。「あかちゃんいるの。」とそういって、えい子ちゃんは、すっかりうれしそうに、めをみはりました。「いますとも。おとこのあかちゃんだ。いっぱいだんじだ。」と、ばくおじさんがおっしゃいました。))。「だんじ」は、同年六月に誕生した長男重也が推定される。
①②③黒田重吉⑤都新聞社：東京市麹町区内幸町2ノ10	ズ34	*「生活文化」欄に掲載。
A①三ツ村繁蔵②川内敬五③井波豊④同興舎⑤山雅房：東京市牛込区市ヶ谷田町三ノ二〇 B①②③上地一史⑤沖縄タイムス社：那覇市久茂地町	新●	*高村光太郎の手になる鏡の顔のスケッチを掲載。*A：タイトルなし。B：タイトル「私の顔」。
①②③黒田重吉⑤都新聞社：東京市麹町区内幸町2ノ10	ズ32	*「生活文化」欄に掲載。

作品タイトル：タイトルがないものは（ ）に入れた。また、対談等の座談会形式のタイトルは便宜上（ ）で記した。タイトル決定の際に、場合によっては山口家に所蔵されている類直筆の掲載紙誌タイトルを参考にした。新聞紙掲載のタイトルで、タイトルなのか見出しなのか、リードなのか、判断しにくいものがあり、その場合、署名の直前をタイトルとし、他をサブタイトルにして（ ）に入れた。	掲載紙誌名（巻・号・発行年月日）：新聞は夕刊についてのみ（夕刊）と記した。掲載紙誌が複数の場合には便宜上A・B・・・・の順で書誌を記した。未確認事項には■を付した。
『巴里の宿』小評	1940年6月「文藝汎論」第10巻第6号（6月1日発行）
写真や鏡	1940年6月号「むらさき」第7巻第6号（6月1日発行）
詩人、国民登録所にあらわる	1940年5月号「中央公論」第55年第5号通巻633号（5月1日発行）
自動車との縁	1939年■月「日産自動車」第■巻第■号通巻■号（■月■日発行）
溝谷氏の「榕樹の蔭」と藤田氏の「琉球美人」	1939年11月「歷程」第9号（11月10日発行）
かざまき時計	1939年11月1日号「早稲田大学新聞」第153号
（型破りの珍談奇談・風変わりな人達の『話』の会）	1939年2月号「話」第7巻第2号（2月1日発行）
楽になったという話	1939年新年特輯号「むらさき」第6巻第1号（1月1日発行）
天国ビルの斎藤さん	1939年新年特大号「中央公論」第54年第1号通巻616号（1月1日発行）
詩人便所を洗う	1938年9月号「中央公論」第53年第9号通巻612号（9月1日発行）
ダルマ船日記	1937年12月号「中央公論」第52年第13号通巻602号（12月1日発行）
（諸家寸評）	1937年12月「日本詩壇」第5巻第11号（12月1日発行）
中原中也のこと	1937年11月号「紀元」第5巻第7号（11月1日発行）
岩野泡鳴論	1937年5月『現代日本詩人論』（西東書林5月21日発行）
つまり詩は亡びる其の他	1937年4月号「むらさき」第4巻第4号（4月1日発行）
『母岩』のこと	1936年10月号「批評」第1巻第3号（10月10日発行）
彼（彼・彼の感覚・おもちゃの比較）	1926年9月号「沖繩教育」第156号（9月10日発行）

未発表散文原稿

爪	不明
（この家の人気ものは）	不明
（はくは、毎晩、）	不明
（この間、同郷の）	不明
（興ざめ）	1959年以後「ジャーナル」
梯梧の花	1955—1956年頃
（昭和の八年か九年の頃）	1955年—1956年頃

①編集者②発行人③印刷者④印刷所⑤発行所。但し、奥付に記述がないものは番号を省いた。未確認事項は空白とした。	旧全集 ページ	備考：参考程度に注記した。末尾に*で記した「1」「Y1」等の番号／記号は「山之口猷文庫」草稿細目中の「山之口猷文庫」所蔵リスト（作成：上里マチ子、西村三枝子）で用いられているそれに同一である。「山之口猷文庫」草稿細目」と照合する際に利用されたい。
①②岩佐東一郎③土井儀一郎④典文社土井印刷所⑤文藝汎論社：東京市品川区大井炭塚町4928	新●	
①②波多野一③白井赫太郎④精興社⑤むらさき出版部：東京市神田区神保町二ノ二	新●	*「現代詩壇継承の人々」として紹介される。立像写真1枚掲載。
①小森田一記②③木田開④大日本印刷榎町工場⑤中央公論社：東京市丸ノ内ビルディング588区	説58	*「Y52」（昭和十五年五月号中央公論）の記述あり
①編集者②発行人③印刷者④印刷所⑤発行所	ズ27	
①②三ツ村繁蔵③芝伊徳利④思潮社出版部：東京市芝区田村町1ノ3	ズ24	
①②③出井盛之⑤早稲田大学新聞社：東京市淀橋区戸塚町1丁目早稲田大学構内	ズ16	*「学芸」欄に掲載。
①②③藤澤閑二④大日本印刷⑤文藝春秋社：東京市麹町区内幸町2丁目1番地大阪ビルディング	新●	*座談会、司会：松井翠聲、出席者：木村太郎・黒川一・山形天洋・山之口猷・宮坂晋九。
①②波多野重太郎③白井赫太郎④精興社⑤むらさき出版部：東京市神田区神保町2ノ2	ズ20	
①小森田一記②③木田開④大日本印刷榎町工場⑤中央公論社：東京市丸ノ内ビルディング588区	説41	*「Y52」（昭和十四年一月号中央公論）の記述あり
①小森田一記②③木田開④大日本印刷榎町工場⑤中央公論社：東京市丸ノ内ビルディング588区	説26	*「浄化槽断面図」掲載。*「Y52」（昭和十三年九月号中央公論）の記述あり「Y55」
①雨宮庸蔵②牧野武夫③堀修造④大日本印刷榎町工場⑤中央公論社：東京市丸ノ内ビルディング588区	説12	*「Y52」（昭和十二年十二月号中央公論）の記述あり「Y54」（「袋入り草稿類②」に独立した一束の塊として収納）
①②吉川則比古③方金隆④日東印刷⑤日本詩壇発行所：大阪市外布施市御厨川島27番地	新●	*「一、昭和十二年度詩壇のすぐれたる詩作品二三、もしくは詩人一、詩の問題に就いて」というアンケートへの回答。後者にたいしては無回答。
①②隠岐和一③山田栄一④山田印刷所⑤紀元社：東京市渋谷区猿楽町52番地	評95	
①草野心平②渡邊亦夫③小林正雄⑤西東書林：東京・銀座西八ノ九	評82	
①②波多野重太郎③白井赫太郎④精興社⑤むらさき出版部：東京市神田区神保町2ノ2	評14	
①②山室静③内藤はるよ④万字印刷所⑤批評社：東京市四谷区坂町65坂町別館	新●	
①国吉真哲②沖縄県教育会③木村禎蔵④大同印刷⑤沖縄県教育会事務所	新●	* 3篇連作。総タイトル「彼」

	新●	*「Y59」
	新●	*「Y72」（「袋入り草稿類④」に独立した一束の塊として収納）
	新●	*「Y74」（「袋入り草稿類①」に独立した一束の塊として収納）
	新●	*山口家所蔵
	新●	*山口家所蔵。「ジャーナル」のスタンプを捺したグラ刷りあり。内容から推定して帰郷後のもの。
	評373	*原稿未見。旧版全集より採録。「ほくは、梯梧や仏桑華と別れてすでに三十余年にもなってしまう」という文章の「三十余年」「三十年余り」という表現は、1955年5月8日号「日曜新聞」掲載の「沖縄と目の丸」から56年9月号「婦人画報」掲載の「沖縄の叫び」までに書かれた文章中でよく使われる表現。特に1956年7月3日号「読売新聞」掲載の「梯梧の花」では「ほくが梯梧の花を見なくなってかれこれ三十余年になる」と言い、前述の「沖縄の叫び」では「三〇余年前、まだほくが沖縄にいたころまで」と言う。「三十余年」とは再上京してからの在京期間を指すが、こうしたデータを総合すると、当文章は、1955年から56年頃の文章と推定される。「読売新聞」掲載の「梯梧の花」と同タイトルであることから類推するならば、1956年に書かれた文章なのかもしれない。前者を「読売新聞」に渡し、当文章を没にしたとも考えられる。
	新●	*「Y68」（「袋入り草稿類④」に独立した一束の塊として収納。使用原稿用紙から推定して1955年—56年頃に書かれたか）

作品タイトル：タイトルがないものは（ ）に入れた。また、対談等の座談会形式のタイトルは便宜上（ ）で記した。タイトル決定の際に、場合によっては山口家に所蔵されている類直筆の掲載紙誌タイトルを参考にした。新聞紙掲載のタイトルで、タイトルなのか見出しなのか、リードなのか、判断しにくいものがあり、その場合、署名の直前をタイトルとし、他をサブタイトルにして（ ）に入れた。	掲載紙誌名（巻・号・発行年月日）：新聞は夕刊についてのみ（夕刊）と記した。掲載紙誌が複数の場合には便宜上A・B・・・・の順で書誌を記した。未確認事項には■を付した。
(その夜も、山の手の)	1955年前後
(新橋の橋の上)	1953—1954年頃
(産気づいた女房)	1952年4月頃

資料（書簡その他）

(楠本憲吉宛告別式案内ハガキ)	1963年7月22日（消印）
(『泉芳朗詩集』別冊「泉芳朗の人と文学」編集部宛山之口獏ハガキ)	1959年10月—11月頃 1959年12月『泉芳朗詩集』別冊「泉芳朗の人と文学』（泉芳朗詩集刊行会12月25日発行）
(山之口獏宛岡田宗叙書簡)	1959年7月28日（書簡後付け）
(山之口獏宛宮国泰誠書簡)	1958年11月27日（書簡後付け）
(山之口獏宛米国民政府交渉報道局長カール・F・バーツ招待状)	1958年11月5日（書簡後付け）
(山之口獏宛火野葦平・大日方伝ハガキ)	1958年9月25日（消印）
(山之口獏宛秀文書簡)	1957年10月30日（書簡後付け）
(椎窓猛宛山之口獏ハガキ)	1957年9月1日（消印）
(山之口獏宛堤美智子書簡)	1956年10月2日（書簡後付け）
(小出ふみ子宛山之口獏ハガキ)	1952年5月9日（消印）
(小出ふみ子宛山之口獏ハガキ)	1952年1月18日（消印）
(小出ふみ子宛山之口獏書簡)	1951年4月9日（封筒裏日付け）
(月田亨宛山之口獏書簡)	(1948年)3月7日（封書裏日付け）
「後記」（八雲書店版『山之口獏詩集』）	1947年11月
(井伏鱒二宛佐藤春夫紹介状)	11月末日（年不明）
(更科源藏宛山之口獏書簡)	7月12日（封筒裏日付け、年不明）
(蒲池侃宛山之口獏書簡)	年月日不明
「全織新聞」選評および選考作品	1955年1月1日号—1963年4月1日号

①編集者②発行人③印刷者④印刷所⑤発行所。但し、奥付に記述がないものは番号を省いた。未確認事項は空白とした。	旧全集ページ	備考：参考程度に注記した。末尾に*で記した「1」「Y1」等の番号／記号は「山之口鏡文庫」草稿細目」中の「『山之口鏡文庫』所蔵リスト」(作成：上里マチ子、西村三枝子)で用いられているそれに同一である。「山之口鏡文庫」草稿細目」と照合する際に利用されたい。
	新●	*「Y67」(「袋入り草稿類①」)に独立した一束の塊として収納。使用原稿用紙から推定して1955年前後に書かれたか。「そのころはすでに、在京の沖縄出身の人々の間に、沖縄の日本への復帰が唱へられていて、そのことに結びつけて、沖縄舞踊の紹介ということをはくらは考えたのである」という文章中の「そのころ」とは「第三日曜日」(1956年9月号「新潮」)に記述されている1951年9月8日のサンフランシスコ講和会議前後のことをいう。当文章は、「そのころ」から3～4年経過した頃の文章と推定される。
	新●	*「Y66」(「袋入り草稿類①」)に独立した一束の塊として収納。使用原稿用紙から推定して1953年～54年頃に書かれたか)
	新●	*「Y65」(「袋入り草稿類①」)に独立した一束の塊として収納。「いま、ミミコは無事に三年生になった」という文章から推定して1952年4月頃に書かれたか)

①泉宏尚他②泉芳朗③篠倉政一④第一印刷所⑤泉芳朗詩集刊行会：東京都千代田区有楽町1の2日比谷ビル山本忠義法律事務所	新●	*沖縄県立図書館所蔵(新崎盛敏氏寄贈書簡)
	新●	*別冊「泉芳朗の人と文学」(目次に「山之口鏡・通信」とある)に掲載された諸家の追悼寄稿文から判断する限り、原稿の締め切りは11月頃までと推測され、ハガキの内容からこのように判断した。泉芳朗については「泡盛談義」に言及がある。
	新●	*山口家所蔵。1959年8月号「芸術新潮」に掲載された「沖縄の芸術地図」に触れての所感。岡田宗毅は1909年、千葉県生。「詩の家」「Rien」同人。美術商、古陶研究家としても有名。手紙は「摘采應用箋」専用原稿用紙を使用。
	新●	*宮国泰誠は「宮古博愛医院」医師。手紙は「宮古博愛医院」専用原稿用紙を使用。
	新●	*交歓会の様子については「白・黒の精進あげ」に言及がある。鏡は交歓会の前日の11月6日に34年ぶりに沖縄の土を踏んだばかりであった。
	新●	*山口家所蔵。ハガキの内容については「沖縄の芸術地図」に言及がある。
	新●	*手紙は「日本通運株式会社」専用原稿用紙を使用。
	新●	*沖縄県立図書館所蔵。
	新●	
		*唐井清六「山之口鏡書簡」(「親和国文」37号・神戸親和女子大学国語国文学会・2002年12月)収録
		*唐井清六「山之口鏡書簡」(「親和国文」37号・神戸親和女子大学国語国文学会・2002年13月)収録
		*唐井清六「山之口鏡書簡」(「親和国文」37号・神戸親和女子大学国語国文学会・2002年14月)収録
	新●	*山口家所蔵「東京文房堂製10・20」・封書。文面から推定して1948年7月に上京し、練馬区貫井町の月田家に間借する直前のものと思われる。
	新●	*山口家所蔵。出版社倒産のため刊行されず。こよりで綴じられた2枚の原稿用紙に記載。本文末尾に「一九四七年十一月末日」の付記あり。また第1枚目には「中央印刷株式会社御中／十月八日組入レ／『山之口鏡詩集』／追ヒ込ミ原稿『後記』／本文ノ次ニ別丁ニテ入レテ下サイ／八雲書店」との八雲書店から中央印刷宛の付箋が貼られており、急ぎの追い込み原稿であったことがわかる。出版社倒産のため、「後記」とともにこの付箋も鏡の手許に残ったものと思われる。経緯は「装幀の悩み」参照。
	新●	*山口家所蔵。
	新●	*山口家所蔵。消印がなく、郵送されずに鏡の手許に残ったもの。手紙は原稿用紙を使用。
	新●	*山口家所蔵。消印がなく、郵送されずに鏡の手許に残ったもの。山口まおりお編「山之口鏡蔵書目録」(第三巻所収)に蒲地侃『歌集梅の花』(1961年6月刊・実生短歌会)が見える。
⑤全国繊維産業労働組合同盟	新●	

(まつした ひろふみ：日本語・日本文学科 教授)